

20105

MICS AVR で人工弁周囲逆流が制御できず、正中切開コンバートとなった悔やまれる 1 例

【緒言】視野がかなり限定される MICS AVR では、わずかなトラブルで人工弁周囲逆流 (PVL) が発生しうる。【症例】75 歳、女性。2013 年 3 月労作時呼吸困難のため当院紹介。心エコーで重度 AS を指摘され (EF 67%、Mean AVPG 58mmHg、AVA 0.61cm²、AR 中等度)、右第 4 肋間開胸で MICS AVR を行った。RCA 直上の大動脈壁に小さな石灰化プレートがあり、RCC の弁輪の視野が著しく不良で、遮断解除後に PVL が判明した。再度遮断して人工弁越しに追加針をかけたものの、PVL は制御できず、正中切開コンバートとして AVR をやり直した。手術時間 507 分、人工心肺時間 348 分、大動脈遮断時間は 97、58、89 分。術後経過は良好で、手術翌日に抜管し、術後 19 日目に退院した。【結語】MICS AVR で PVL を起こさないための、アプローチする開胸肋間、人工弁の構造的ピットフォール、結紮時の注意点などについて報告する。

